

平成 23 年度第 6 回

恵那市市民評価委員会議事録（要約版）

日時：平成 23 年 9 月 22 日（木）1 時 30 分～

場所：恵那文化センター2F 展示会議室

1. 委員長あいさつ
2. 会議の公開・会議録の公表について（確認）
3. 議事
評価結果の取りまとめ
4. その他

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦 大橋由美 柴英子 田口譲 柘植麻美 平野未帆 牧野香 山田基

【オブザーバー】竹内泰夫

【欠席者】宮地政臣 三輪哲司

【事務局】企画部長 小嶋初夫 企画課長 西尾昌之 企画課係長 福平栄久 企画課主査 梶村一之

1. 委員長あいさつ

■委員長 先日 of 現地視察に伴い、委員には 12 事業について資料を提出していただいた。本日は 2 時間を目処に 12 事業について評価をまとめていく。

2. 会議の公開・会議録の公表について（確認）

〔意義なし〕

3. 議事

評価結果の取りまとめ

〔事務局より資料の説明〕

○放課後児童対策事業

■委員長 事務局から資料の説明があったが、事務局がまとめた総合評価に付け加えることがあるのかご意見いただきたい。

■委員 総合評価について、市としてどのように対応するのか。例えば、長島学童保育所の防災対策についてすぐに取り組むのか。

■事務局 総合評価の案には長島学童保育所について記載していないが、担当課には各委員からの指摘事項も伝えるので、どこの地域格差についてなのか、担当課は把握できる。

■委員長 長島学童保育所は防災面の他に衛生面も問題があると感じたが、長島学童保育所のような施設は他にあるのか。

■事務局 学童保育は民間施設で行っているのは大井町にある。その他は公共施設で行っている。周辺部では一定の人数が集まらないので、通年ではなく、季節学童を学校などで行っている。

■委員長 長島学童保育所のような場所が他にないのなら、具体性を持たせるため、総合評価に長島学童保育所を入れたらどうか。

■委員 父兄としてはどんな場所でも預けたいという気持ちがあるかもしれないが、何か起こってからでは遅いので、長島学童保育所は閉鎖するべき。

■委員長 現状の施設を閉鎖して、新しい施設を考えていくということだと思うが、総合評価の地域格差の部分に付け足してよいか。

■委員 たまたま視察で長島学童保育所を見たので現状が分かったが、他の学童保育所は分からない。担当課から岩村の学童保育所はよく指導員が変わると聞いた。場所だけの問題ではなく、学童の委託に関するもっと細かい規定が必要なのでは。

■委員長 恵那市は公設民営という形であるが、どこまで公設かという問題と思う。委託費まで公設であれば、現状は高すぎると思う。委員の意見を聞きたい。

■委員 公平に施設を利用できることが大切なので、ある程度の基準を作って、その基準を満たしたところに委託していくことが必要。

■委員 父母会がなんとか自分たちで運営していこうとしているところで、市が線引きを

してしまうとブレーキになってしまうのでは。うまく調整して、間を取り持っていく必要を感じた。

■委員 長島学童保育所を何年か前にも見学したが、改善していないので、事故が起こる前になんとかする必要がある。ただ、今の話を聞いて公設でも全てが整っていない部分もあるので、基準を決めることはよいと感じた。

■委員 長島学童保育所は改善するためにも総合評価の文言に入れたほうが良い。また同時に、ある程度のサービスを保持できるところしか、委託できない仕組みを作ることを総合評価に入れたら良いのでは。

■委員 どの事業にも言えることだが、行政は縦割りで、国から市民まで行くまでに不都合が出てくる。今回も学校施設の利用に関して、不都合が出ていると感じた。この問題には市はもっと積極的に取り組む必要がある。長島学童保育所について具体的に表現したら良いのでは。

■委員長 長島学童保育所の状況はよくないので、新しい施設を考えることを表現する。もう1つ公設民営の解釈について。どこまで市が費用を持つかということだと思う。

■委員 公設民営の部分で、市は責任の観念があるのか。トイレの隣で調理を行っているため、衛生上も長島学童保育所の状況はよくないので、表現に入れるべき。

■事務局 担当課ではないので詳しくは言えないが、そもそも学童は父母会が始めたものを、国や県や市が重要だとして、補助を行うようになった過程である。しかし、今は公設民営なので、何かあった場合には、市に責任があり、市がイニシアティブ（主導権）を持って委託料や、保育場所の基準を平等に決めるべきである。教育委員会との連携の話があったが、同じ市役所の中の話なので、部署が違うということは理由にはならない。場所については学校が空いているかどうかということ。空いてない場合新しい施設を作るかということは、お金がかかるので議論する必要がある。いずれにしても、運営できる施設を確保するのは市の責任である。

■委員長 総合評価の文言に、公設部分の意義を明確化すること。また、長島学童保育所の緊急性について入れるということによいか。

〔異議なし〕

○特定健康審査・特定保険指導事業

■委員 健康の問題は非常に重要であるが、関心が薄い気がする。健康な人はどんどん仕事をし、病気になってしまう。全ての市民が健康に関心を持つような方法が必要。

■委員長 国保加入者中心の検診事業であり、会社に勤めている人、すでに病院にかかっている人は受診率が低い。何か全員が受診する方法がないかという意見があったが、以前は受診率が64%を越えないとペナルティーがあつて、市も受診率向上に力を入れたが、受診率は伸びていない。大井町・長島町は中心市街地で受診率が低いので、大井町・長島町

における集団検診の回数を増やすことを文言に入れたらどうか。また、恵那市は脳疾患と心疾患が他市より多いという。啓発するにしても何か特徴的に、市民が聞いたら検診に行かなければならないと思うような啓発をすることを、文言に入れたらどうか。

■委員 啓発をするだけでは市民は検診にはいかない。例えば、自治会の中で取り上げ、500 円の負担のうち 200 円を自治会で負担するなどの取り組みはどうか。

■事務局 総合計画の中では、各地域で健康福祉部会を作り、市が一緒になって健康づくりに力を入れている。健康推進課の地域担当が健康に関する勉強会を、三郷町、中野方町で行っており、今後市内全域で行なっていく予定。

■委員長 自治連合会の会合でも、担当課より受診率について説明を受けるが、その後に繋がっていない。総合評価の文言に入れなくてもよいと思うが、地域でも自分たちの問題として取り上げる必要があるのでは。

○人工透析施設運営事業

■委員 文言にこれまでと同様の努力とあるが、それでは足りない。余程の覚悟が必要。設備が新しいうちに現状に合わせたほうが良い。先生の話も聞いて、大変献身的に取り組んでいただいていることが分かった。先生が体調を崩したときなどの対応も考えると、大変問題のある状況と思う。

■委員長 以前、人工透析施設は中津川市民病院にもなくて、坂下病院だけだった。最近人工透析設備を持つ病院が増えてきて、岩村診療所も導入した。満員では健康維持の面で不健康な方が増えることになる。とはいっても経営的な面もあるので、委員の意見を聞きたい。

■委員 文言として現状維持では弱いので、早急になど、期限を定める必要があるのでは。

■委員 先生の話でスタッフの確保が難しいと聞いたので、設備を少しずつ減らすなどの対策が必要なのは。

■オブザーバー 医療関係者は「医療は営利活動ではない」というが、経営努力をする必要がある。市外で透析している人が利用できると良い。

■委員 当面、透析患者は増える。ランニングコストに関しては具体的記述があったほうがよい。

■委員長 文言は最初から「財政的に負担になると思われる」まではそのままが良いと思う。その後「現在の医療スタッフに応じた治療にするため、施設の見直しをする。」ということではどうか。意味としては、先生も今のスタッフでは現状の患者数しか対応はできないといっている。中身に応じた器にしていくということ。

■事務局 現実問題として、今のスタッフで全てのベッドを利用することは難しい。施設を作ったときには、スタッフに応じて少しずつ利用を増やしていく計画で、月水金の 1 クールで行なっていたのを、2 クールに増やす予定である。スタッフの確保が難しく、患者

が予定通りに増えていない。しかし、機械を購入しているので、それを売り払うのは現実的な話ではないと思うがどうか。

■委員長 あくまで市民から見た意見である。市としてはこれに発奮していただいて、現在の施設が十分機能できる頑張り方をしてもらえばいい。しかし、市民目線から見て、内容を具体的にいうと、今の医療スタッフに応じた人工透析の事業に見直すという表現となる。

■委員 設備を守りたいというのが役所の姿勢。すぐにスタッフが整わないのであれば、設備を少しでも減らすことによって、職員の意識が変わるのでは。

■委員長 評価でいくと、現状をこのままで将来生かしていくとあるが、今の意見は一定の市民の厳しい見方がある上で、施設を機能させるため努力する必要があるという表現である。文言としては、「財政的にも負担になると思われるため、現状における医療スタッフに応じた事業に見直しを図ること」とする。以下削除でよいか。

〔異議なし〕

○住宅用太陽光発電システム設置補助事業

■委員 太陽光発電と同時に市としてのエネルギー全体の構築が大切。太陽光発電を設置するには相当の金がかかる。お金がある人もない人も設置できるとよい。補助ではなく融資のようなことを行なってはどうか。市、企業、市民が集まった組織を作って検討してみてもいい。

■委員長 滋賀県の野洲市では、地域通貨を利用して、市の太陽光発電の設置に投資している。住民は地域通貨で、地域の特産物を購入するなど、循環するようなシステムが出来ている。このような取り組みは住民サイドの協力と理解が必要。委員が言っていたことはこういうシステムを考えることだと思うので、文言としては普及させるのにどういうシステムを住民と行政で一緒に考える必要があるのか、普及させるシステムを考案すると言うようにしたらどうか。

■委員 他市より補助金額が多く、さらに市内業者が工事を行なうと1万円上乗せになると聞いたが、それほど市長が力を入れているので、その思いを掲げて、補助はそのまま続けたほうが良いのか検討したほうがよい。また、この間の震災を受けて、国も補助をしようという動きもあるので、もっとPRしていくことになると思うが、多額の費用が必要なのということに対して、いろんな施策を考えていければよい。

■委員長 恵那市で学校設備などに太陽光を設置しているところは。

■事務局 最近では、山岡小学校に取り付けた。今建設している明智保育園、常設型資源ごみ回収拠点施設でも設置する。今後新しい建物を作るときは太陽光発電システムを設置していく。

■委員長 より住民を巻き込むようなシステムを考案していくことを文言に入れる。

■オブザーバー 恵那は補助について贅沢すぎるような意見があるが、原子力に依存しないためには、太陽光発電を産業として伸ばす必要がある。以前は費用が高く、産業として成り立たなかったが、普及することによって費用が下がった。促進するという意味で現在の施策で十分でないか。それに追加して、融資の制度など考えてみては。

■委員長 市の新しい施設には太陽光発電を設置するということであるが、その他市民も関わるような運用システムを考案していくということ。事業の枠を超えてはいけませんが、常設型資源ごみ回収拠点施設は小水力発電を設置するのか。

■事務局 現在検討はしているが、水利権の関係で難しい状況である。

○エコセンター恵那じん芥処理施設維持管理経費

■委員長 エコセンターについては明智のあおぞらと統合することにより、経費が下がったという話も聞いている。R D F炭化物を作り、助燃材として販売しているが、輸送費がかかり、利益は上がっていないようだ。純度を高めれば炭になるので、利用法が増えるが、環境課で研究があまりなされていない。評価の内容に付け加える点があるか。

■委員 ごみ処理は多くの費用がかかる。その反面市民にとって便利であるが、普通になってしまっている。直接市民がお金を出さないで、市民は自覚が持てないのでは。行政が行なっても、市民が行なっても同じであることを、どこかに表現できないか。今まで市民へ十分P Rしてきたかと思うが、まだ足りないのでは。

■委員長 住民が慣れてきたといっても、分別がうまくできていないことから、機械が故障して、費用がかかる。ごみ百科事典が配られているが、なかなか周知されていない。各自治会では環境委員を作って活動しているが、山岡ではどうか。

■委員 環境委員はあまり活動してないのでは。女性部がごみの集積所を見回るようなことはある。

■委員長 旧恵那地区だと、環境委員がごみの集積場所でチェックするので、分別がだいたいできていると思う。恵南地区の取り組みはどうか。

■事務局 岩村に住んでいるが、岩村では同じように不燃物の日には交代で正しく出しているかチェックしている。環境課からも自治会にお願いして徹底していると思う。

■委員 ごみの出し方を見直すことだけでは、年間のコストの削減はできない。次期の施設のあり方を考えるしか方法はないのでは。R D Fも有効利用されていない。

■事務局 施設ができたときは、ダイオキシンの問題が騒がれていた。そのため、連続運転の施設か、R D Fの施設しか補助金がでなかった。中津川市と広域で連続運転するのが、一番だが、中津川市も施設を作ったばかりで、一緒にできなかった。それで、ごみの量から恵那市だけでは連続運転できないのでR D F施設を選んだ。しかし、委員の言われたとおり、R D F施設は複雑でお金がかかる。さらに、建設から9年経つので、お金がかかるのはこれから。ある時点で次の施設を考える必要があるかもしれない。今は恵南との施設

統合ができたので、今までより 2 億から 3 億ほど削減できているが、これからそれ以上の維持費、修繕費がかかるので、長い目でみれば次の施設を考える時期と認識している。

■委員長 燃やさない、煙を出さないという地域の合意を得るため、R D F 施設とした経緯もある。新しいものを建てるということであれば、違う場所に建てることも検討する。現行方法と比べて、コストの比較をしながら新しい施設を検討するという文言を付け加えさせていただく。

■オブザーバー ごみの問題は、市民の意識の話があったが、問題意識を高めるにはごみ袋の値段を上げるのが早い。行政側では「ごみ処理のあり方の根本的な見直しを図る」と文言に入れたらどうか。

■委員長 文言の中に「次のごみ処理施設の検討」とあるが、「現行方式と比べてコストを削減できる方式を含めて」を追記してよいか。

〔異議なし〕

○未登記市道解消推進事業

■委員長 全体事業のスピードアップが一番求めていること。以前登記の作業が忘れられていて、手続きに 3 年かかった事例があった。人事異動による引継ぎの手落ちが多いと思う。全体事業のスピードアップには、職員の引継ぎと寄付からの登記のスピードアップが重要。付け加えることはないか。

〔他になし〕

〔第 7 回 平成 23 年 9 月 28 日（水）午後 9 時 00 分～〕

〔 閉 会 〕